

## 魔法のダイアリー プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：宮條 航 所属：山口県立宇部総合支援学校

記録日：平成31年2月16日

キーワード： コミュニケーション、自己決定、見通し、表現、発語

### 【対象児の情報】

- ・ 学年 小学部6年生
- ・ 障害名 知的障害を伴う自閉症
- ・ 障害と困難の内容

好きな活動がいつあるのかわからなくて不安定になる。

自分の意思を適切な手段で表現できない。

### 【活動目的】

#### ○当初のねらい

- ① 活動に見通しを持って落ち着いて学習に取り組む。
  - ・ スケジュールワークによる見通しの深化
  - ・ 音声と文字情報の一致を図り、確実な情報の入力及び手段の獲得（プラスα的要素）
- ② 自分の思いや要求を言語で表出することができる。
  - ・ 端的な要求の提示
  - ・ 具体的な行動の提示

#### ○実施期間

H30年5月22日～H31年2月8日

#### ○実施者

宮條 航

#### ○実施者と対象児の関係

クラス担任

## 【活動内容と対象児の変化】

### ○対象児の事前の状況

(コミュニケーション面)

- ・身近な要求（食べたいもの、遊びたいもの）を言葉で伝えることができる。
- ・日常的に使う簡単な指示（立つ、座る、来る）は理解しており、行動に移すことができる。
- ・「○○しますか？」という問いかけに全て「はい」と答える。
- ・少し複雑な要求（まだ遊びたい、もう一回やりたい）や拒否は伝えることが難しい。

(学習面)

- ・平仮名と簡単な漢字のなぞり書きをすることができる。
- ・平仮名の清音は1文字ずつ拾い読みをするため、単語の意味理解には繋がっていない。

(生活面)

- ・身近な教員や仲の良い友達に触れて喜ぶことがある。
- ・学校に併設されている施設に入所しており、2ヵ月に1回程度帰省することができる。
- ・自分の好きな活動を制止されるとパニックになる。

### ○活動の具体的内容

ねらい① 活動に見通しを持って落ち着いて学習に取り組む。

(スケジュールワークによる見通しの深化)

#### ・ Drop Talk



〔使用時期〕 H30年5月23日～H31年2月1日まで

〔使用状況〕 毎日1校時の日常生活の指導において、児童と1対1で使用した。周囲環境については、特に配慮は必要としないので自席での活動とした。

#### STEP1：スケジュールの理解に向けて



図1

イラストと音声によるスケジュールの理解をねらい、ドロップトークを使用した。情報の入力は、視覚(シンボル)、聴覚とのどちらかに極端な優位性がない為、本児に負担なく学習を進めることができた。

併せて日課に出てくる言葉(文字情報)と音声、活動内容が結びつくことを期待して取り組みを進めた。イラストや日課をタップすると音声流れ、1文字ずつ読むのではなく、文字を塊として読めるようになることを期待した。

#### STEP2：スケジュールワークによる語彙の獲得



スケジュールの順序立てを期待して、定型文「○○が終わったら△△」という表現の獲得を目指した。活動と活動の間や“あそび”のように本児が楽しみにしている活動の前の活動の語尾に、「終わったら」という音声を入力した。

(プラスα的要素)

音声と文字情報が結び付くことで、情報入力の幅が広がるのではないかと考え、シンボルと文字の並びを意識して読むことができるようにFiretWords:Japaneseを使用した。

・FiretWords:Japanese



〔使用時期〕 H30年6月13日～H31年2月1日まで

〔使用状況〕 週4回の個別の学習で使用した。ヘッドフォンを使用して音声をクリアに聞けるようにした。

ねらい② 自分の思いや要求を言語で表出することができる。

(「嫌です」等の否定意思の表出を目指して)

・Drop Talk



〔使用時期〕 H30年6月22日～H31年11月28日まで

〔使用状況〕 活動の切り替えを促す際、本児の意向を引き出す為に使用した。



左の図のように拒否(いやです)と受容(わかりました)のシンボルを横に並べてキャンパスに配置した。シンボルをタップすると本児の声で「いやです」、「わかりました」と読み上げるように設定した。

【イラストと写真の優位性について】

平仮名を単語の塊として捉えるためにシンボルを使用した。当初直感的にイラストを使用していたが、本当に本児にとって優位なシンボルは何かを疑問に感じ、同一物のイラストと写真を提示し、認識の差異からどちらが優位か探った。身近にある物の名称(本、黒板、消しゴム、みかん等)30個、泣く、怒る、落ちる、投げる等の感情や物の状態を表す言葉10個を対象に検査をした。その結果、身近にある物の名称はイラスト、写真問わず9割正当した。一方、感情や物の状態を表す言葉に関しては写真1割、イラスト3割の正当率だった。週2回の学習を1ヵ月行くと、写真3割、イラスト9割の正当率になった。

|                      | 写真  | イラスト |
|----------------------|-----|------|
| 身近にある物の名称            | 90% | 90%  |
| 感情や物の状態を表す言葉         | 10% | 30%  |
| 感情や物の状態を表す言葉(介入1ヵ月後) | 30% | 90%  |

このことから本児は、具体物は写真イラストどちらにも優位性は見られず、感情や物の状態を表すにはイラストを使用するのが望ましいとわかった。そこで今回の使うシンボルは、感情や物の状態を表すものをイラスト、それ以外のものを写真とイラスト両方示し、本児に合った方を使用した。

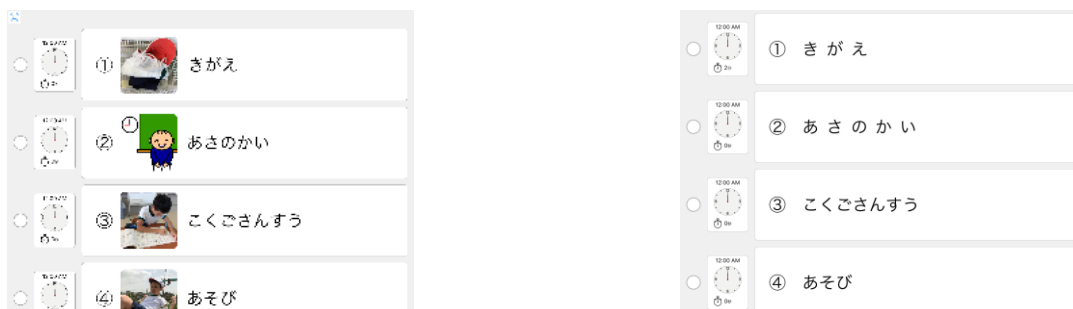
## ○対象児の事後の変化とエビデンス

ねらい① 活動に見通しを持って落ち着いて学習に取り組む。

### STEP1：スケジュールの理解に向けて

本児は実施当初から1日の日課を表すシンボルを理解していた。その為、(シンボル+文字情報)だと、シンボルに注目してひらがなを読んでいなかった。1日の大まかなスケジュールはシンボルを使用して示して理解することができるが、シンボルでは表しにくいものは音声、もしくは文字情報でないと伝わらないと感じた。そこで、(シンボル+文字情報+音声)のキャンパスとは別に(文字情報+音声)のキャンパスを併用した。(シンボル+文字情報+音声)で1日のスケジュールを把握した後、(文字情報+音声)のキャンパスを使用して文字情報と音声の結びつきを図った。

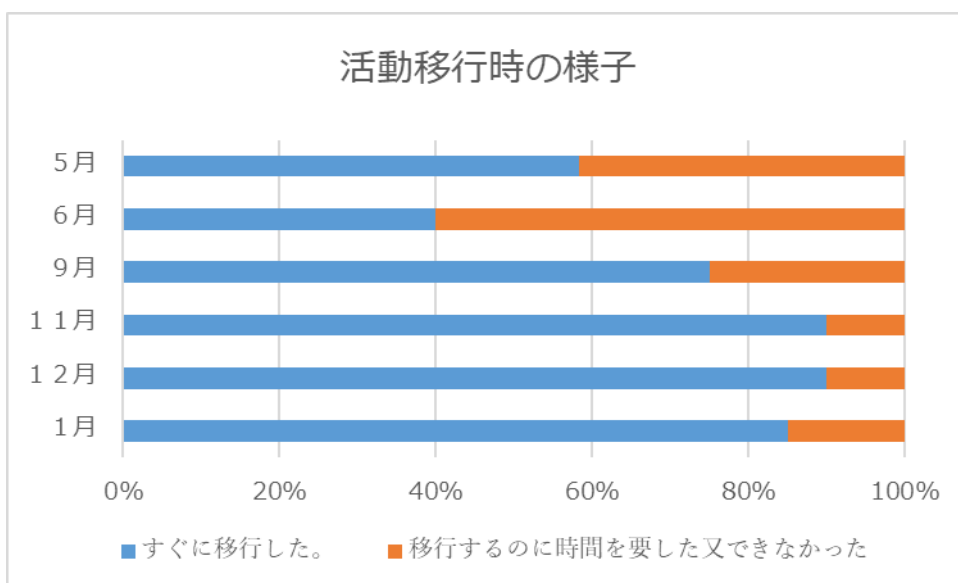
9月上旬頃から「あさのかい」、「あそび」、「そうじ」の文字情報と音声の結びつきが見られた。これまで単語の頭文字だけで判断して知っている単語を発していた本児にとって、「あさのかい」と「あそび」を区別できたことは、文字数もしくは頭文字以外の文字からも情報を読み取っているものだと感じた。



### STEP2：スケジュールワークによる語彙の獲得

スケジュールの理解が定着した後、「○○がおわったら△△」という定型文を使用し、『「着替え」 が終わったら』のように後ろの活動と結びつける音声を追加した。日常生活でもこの定型文を意識して使用した。

介入してから1か月後、「掃除が終わったらグミ！」と要求するようになった。その後も要求場面で同様の発言が見られた。また、「グミ！グミ！グミください。」と強く要求してきた場面でも教師の「○○が終わったらグミね。」という言葉かけを受け入れ活動を切り替えることができた。自分で「○○が終わったら△△」と言って落ち着けている姿も見られた。



ねらい② 自分の思いや要求を言語で表出することができる。

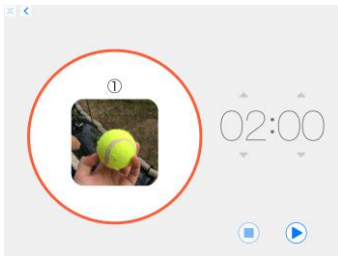
(「嫌です」等の否定意思の表出を目指して)

### ・ Drop Talk



始めはタップ→音声が流れる→教師が復唱→本児が復唱という流れで否定を表すイラストと「いやです」の音声を結びつけた。徐々に教師の介入を減らし、3週間程でイラストと音声が結びついた。同時に、遊びの途中で中断させる際は図6を提示し、「いやですか？わかりましたか？」と問いかけ「いやです」を選択すると遊びを続けられると意識できるようにした。

介入当初はiPadを払うしぐさを見せたが、1週間程でiPadの画面を適当にタップするようになった。介入3週間で「いやです」のイラストを見ながら押すようになり、このイラストを選択すると一定時間教師が離れることを理解した様子だった。7月に入り、「いや」と言いながらイラストを選択するようになり、教師が少し離れて見守っていると活動を移行する姿が見られた。



拒否の表出と行動が十分に一致した後、キャンバスリンク機能を使ってタイマーの画面が出てくるように設定した。1か月程教師と一緒に操作してタイマーを作動させる練習をすることで、1人で操作して活動を移行することができた。自分で選択することで、納得して移行できたのではないかと考えられる。

介入前は行動の可否の問いには全て「はい」と答えていたが・・・

9月以降否定関係の発語が見られるようになってきた。

| 食事等に関するもの                  |         |                               |
|----------------------------|---------|-------------------------------|
| 日時                         | 発語内容    | 状況等                           |
| 10月26日                     | いらない    | 「牛乳いる？」と聞かれて返答                |
| 11月20日                     | やさしいらん  | 野菜を皿に盛られたときに即答                |
| 行動等に関するもの                  |         |                               |
| 日時                         | 発語内容    | 状況等                           |
| 9月13日                      | いかない    | 「トイレの個室に入っている時、運動場行こう」と誘われて返答 |
| 以後、移動したくない場面で発語が見られるようになる。 |         |                               |
| 11月20日                     | トイレいかない | 「トイレ行く？」と聞かれて返答               |
| 学習等に関するもの                  |         |                               |
| 日時                         | 発語内容    | 状況等                           |
| 11月6日                      | きない     | 発表会の衣装を着るように言われて返答            |
| 11月8日                      | もう！きない  | 発表会の衣装を着るように言われて即答            |

1 1月から、名詞や程度を表す副詞をつけて発語する場面が見られた。このことから、否定を表す語句を理解していると考えられる。

## ・その他エピソード

### ・エピソード1

本児が大切にしていたスーパーボールを無くした際、その場では探すことができなかったので、「帰りの会が終わったらね」と伝えると自分の教室に戻り帰りの会に参加することができた。以前は執着が強く、一度無くすと大パニックになっていたが、探すのを待てるようになったのは本児にとって「〇〇が終わったら△△」を単に口ずさんでいるのではなく、言葉の意味を理解し、見通しが持て、安心できているのだと考えられる。

### ・エピソード2

本児がお気に入りの場所(個室)で休み時間を過ごしている時に、教員が「運動場行く？」と問いかけると本児は「行かない」と返答した。以前であれば質問を繰り返して「運動場行く？」と答えていたが、本児が初めて拒否反応を言語で伝えることができた瞬間だった。内側から鍵がかけられていて、外から入れない環境では、言語によるコミュニケーションが役立った。

## ・今後の見通し

ねらい① 活動に見通しを持って落ち着いて学習に取り組む。

DropTalk を使用したスケジュールの理解が進み、1 2月頃から変則的な日課の時のみ、登校後予定を確認するようにした。iPad を使用して音声と文字情報を反復的に入力する支援が本児に有効であるとわかったので、DropTalk や Bitsboard を使用して文字を塊として読む課題に取り組んでいる。本児にとってこのような支援が学びやすい手段であるということを来年度に引継ぎをする予定である。

ねらい② 自分の思いや要求を言語で表出することができる。

1 1月頃から iPad を使用しなくても否定意思を示すことができるようになった為、使用を控えた。また、担当教員以外の教員にも「YES」、「NO」の意思表示をできるようになり、本児が意思を伝え、それが受容される機会が増えた。

今後は本児の否定意思と教員の要求との間で折り合いをつけていく段階に入っていく。今までほとんどの否定意思を受け入れてきたため、こちら側の「拒否を受け入れる」には抵抗がある。本児との信頼関係を十分に築いた上で、i. 本児にとってわかりやすいようにシンボルを活用して要求を伝える ii. 要求が受け入れられなくて困っていることを表す手段を獲得する(教員に相談する等)、この2点が今後の課題であり、必要な支援だと考えられる。

本研究は他の教員や保護者、利用施設の職員の方の協力があったから、本児のコミュニケーションの幅が広がったと思う。来年度を見据えて中学部教員とも連携を図って、可能性を広げていきたい。